

2023～	福祉プログラム開発と評価 ～サービス改善のための実践評価と実践研究の方法～	単位数	履修方法	配当学年
		2単位	SR	1・2年
		担当教員	大島 巖	

※この科目は、2023年度以降入学者に対して開講されている科目です。2022年度以前入学者は履修できません。

■授業のテーマ

実践現場の課題を見直し、課題解決のために取り組む支援サービスを、より質の高い効果的なものへと改善するために用いる「(福祉)プログラム開発と評価」の方法を習得し、実践現場に適用する。

■授業の目的

- ・受講者が関わる（あるいは関心をもつ）実践の課題に対して、実践の経過、判断や行動の根拠、成果と課題等について、「(福祉)プログラム開発と評価」の方法を用いて客観的に記述・言語化し、検証するための方法を身に付ける。
- ・社会福祉課題解決のために有効なサービスを生み出し、既存サービスをより質が高く、効果的なものへと改善するために必要な「プログラム開発と評価」の科学的な方法論を学び、実践の現場に適用させる。

■授業の到達目標

- ・受講者が関わる実践現場の課題に対して、自身の実践の経過、判断や行動の根拠、成果と課題等について、「プログラム開発と評価」の観点から整理して記述し、理論的に説明できる。
- ・受講者自身の実践について、科学的な「プログラム開発と評価」の方法を用いて評価し、評価から得た知見や示唆を説得力ある方法で発表できる。
- ・「プログラム開発と評価」の具体的な方法について、①ニーズ評価、②理論評価、③プロセス評価、④アウトカム・インパクト評価、⑤効率性評価、それぞれについて理解し、説明できる。

■授業の概要

- ・【1-1】社会福祉課題解決のために有効なサービスを生みだし、既存サービスをより質が高く、効果的なものへと改善するために必要な実践研究の意義と方法論を「プログラム開発と評価」の観点から概説する。
- ・【1-2】スクーリングで前項の質疑応答を行い、理解と知識を深める。受講生が関心を持つ実践現場の課題を共有し、「プログラム開発と評価」の観点から整理し、検討するグループワークを行う。
- ・【2-1】「プログラム開発と評価」の具体的な方法を、①ニーズ評価、②理論評価、③プロセス評価、④アウトカム・インパクト評価、⑤効率性評価、それぞれについてテキスト教材とオンデマンド授業で概説する。同時に①～⑤を、《1》制度の狭間問題への対応～効果モデルの設計・開発、《2》成果の上がない制度モデルの改善・再設計、《3》効果モデルの形成・改善、エビデンス生成、《4》海外で効果立証された EBP プログラムの導入という課題に適用させる方法を提示する。
- ・【2-2】スクーリングで質疑応答を行い、理解と知識を深める。受講生が関心を持つ実践現場の課題解決にどのように活用すれば良いのか、受講生が関心を持つ実践現場の課題に当てはめて整理する。
- ・【3】受講生が関心を持つ実践現場の課題に当てはめて、その課題解決に有効な研究計画・評価計画を作成する。スクーリングでは、その研究計画・評価計画を全体発表・共有して、意見交換する。

■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	総論1：プログラム開発と評価とは	定義、二つの目的・アプローチ、評価者の立ち位置	授業の概要【1-1】福祉プログラム開発と評価の方法の概説を行う⇒テキスト1章
2	総論2：評価の5階層	社会プログラムの設計・開発、形成・改善、実施・普及の方法	同上【1-1】社会プログラムの設計・開発、形成・改善、実施・普及の具体的方法を評価5階層の視点から概説⇒テキスト2章
3	総論3：プログラム理論とロジックモデル	プログラムゴールとインパクト理論、プロセス理論	同上【1-1】社会課題解決の方法である社会プログラムの設計図であるプログラム理論・ロジックモデルについて概説⇒テキスト2章
4	各論1-1：制度の狭間問題への対応～効果モデルの設計・開発(その1)	制度の狭間問題のニーズ把握、背景要因、ターゲット集団、対応の好事例分析	同上【2-1】《1》ニーズ評価、理論評価の活用方法を概説する⇒テキスト3章、5章
5	各論1-2：同上(その2)	プログラムスコープの構造、分析の方法、プログラム理論構築の方法	同上【2-2】《1》ニーズ評価の結果をまとめる方法として「プログラムスコープ」の活用方法を学ぶ⇒テキスト3章、5章
6	各論1-3：同上(その3)	各実践現場におけるプログラム理論・ロジックモデルの活用方法	同上【2-2】《1》各実践現場の課題解決の方法に対して、プログラム理論・ロジックモデルを活用する方法を学ぶ⇒テキスト3章、5章
7	各論2-1：成果の上がない制度モデルの改善・再設計(その1)	成果の上がない制度モデルの課題分析、ニーズ把握、背景分析、ターゲット集団分析、対応の好事例分析	同上【2-1】《2》ニーズ評価、理論評価の活用方法を概説する⇒テキスト3章、5章
8	各論2-2：同上(その2)	各実践現場におけるプログラムスコープ分析、プログラム理論・ロジックモデルの活用方法	同上【2-2】《2》ニーズ評価の結果をまとめる方法として「プログラムスコープ」の活用方法、プログラム理論・ロジックモデルを活用する方法を学ぶ⇒テキスト3章、5章
9	各論3-1：導入した効果モデルの形成・改善、エビデンス生成(その1)	導入した効果モデルの形成的評価、効果的援助要素、フィデリティ尺度、アウトカム評価との相関分析	同上【2-1】《3》導入した効果モデルのプロセス評価、アウトカム評価の活用方法を概説する⇒テキスト3章、6章
10	各論3-2：同上(その2)	各実践現場の課題に対応した効果モデル、効果的援助要素、フィデリティ尺度の構築、モニタリング評価の方法	同上【2-2】《3》導入した効果モデルの形成・改善評価の方法、エビデンス生成方法を、各実践現場の実情に合わせて検討する⇒テキスト3章、6章
11	各論4：海外のEBPプログラムの導入とインパクト評価、効率性評価、実施・普及評価	導入した海外のEBPプログラムの技術移転の方法、アウトカム・インパクト評価、フィデリティ評価の方法	同上【2-1】《2-2》《4》導入した海外のEBPプログラムの技術移転、実装の方法を概説する⇒テキスト3章、7章、8章
12	各論5-1：各実践現場における評価計画の策定(その1)	評価の計画、データの収集・分析の方法、質的データの分析方法、量的データの分析方法	同上【3】質的・量的データの収集・分析の方法を含めた評価計画の策定方法を概説する⇒テキスト3章、9章、10章
13	各論5-2：同上(その2)	各実践現場における評価計画の策定方法、企画書の作成方法	同上【3】各実践現場における評価計画の策定方法、企画書の作成方法を学ぶ⇒テキスト3章、9章、10章
14	成果の報告1：研究計画・評価計画を企画書にまとめて報告(その1)	評価の計画、評価結果のまとめ・伝達と活用	同上【3】検討の結果まとまった研究計画・評価計画を企画書にまとめて報告。全体討論を行う⇒テキスト3章、4章
15	成果の報告2：研究計画・評価計画を企画書にまとめて報告(その2)	評価の計画、評価結果のまとめ・伝達と活用	同上【3】検討の結果まとまった研究計画・評価計画を企画書にまとめて報告。全体討論を行う⇒テキスト3章、4章

■スクーリング事前課題(学修時間目安：40時間以上)

社会福祉課題解決のために有効なサービスを生みだし、既存サービスをより質が高く、効果的なものへと改善するために必要な実践研究の方法論である「プログラム開発と評価」を用いて、受講生が関心を持つ実践現場の課題にどのように当てはめれば良いのか、A4用紙2～3枚にまとめて、事前提出をする(11/24迄)。

■スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	在宅学修15ポイントの1の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
2	在宅学修15ポイントの2の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
3	在宅学修15ポイントの3の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
4	在宅学修15ポイントの1-3に関する解説と質疑応答	リモート授業 (11/4 or 11/5に相談の上開講、1コマ)
5	在宅学修15ポイントの4の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
6	在宅学修15ポイントの5の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
7	在宅学修15ポイントの6の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
8	在宅学修15ポイントの4-6に関する解説と質疑応答、各自課題に関する演習、ワークショップ、意見交換	対面・リモート授業 (11/26 or 12/3に相談の上開講、1コマ)
9	在宅学修15ポイントの7の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
10	在宅学修15ポイントの8の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
11	在宅学修15ポイントの9の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
12	在宅学修15ポイントの10-11の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
13	在宅学修15ポイントの7-11に関する解説と質疑応答、各自課題への評価計画に関する演習、ワークショップ、意見交換	対面・リモート授業 (12/22 or 12/23に相談の上開講、1コマ)
14	在宅学修15ポイントの12-15に関する成果の報告①	対面・リモート授業 (2024年1/20 or 1/21に相談の上開講、 連続2コマ)
15	在宅学修15ポイントの12-15に関する成果の報告②	対面・リモート授業 (2024年1/20 or 1/21に相談の上開講、 連続2コマ)

■スクーリング事後課題（学修時間目安：30時間）

受講生が関心を持つ実践現場の課題に当てはめて、課題解決に有効な「福祉プログラム開発と評価」の方法を用いた研究計画・評価計画を、A4用紙3～5枚程度（4,000字以上）にまとめて提出する。

■レポート課題

課題1 (事前課題)	・社会福祉課題解決のために有効なサービスを生みだし、既存サービスをより質が高く、効果的なものへと改善するために必要な実践研究の方法論である「プログラム開発と評価」を用いて、受講生が関心を持つ実践現場の課題にどのように当てはめれば良いのか、A4用紙2～3枚にまとめて、事前提出をする（11/24迄）
課題2 (事後課題)	・受講生が関心を持つ実践現場の課題に当てはめて、課題解決に有効な「福祉プログラム開発と評価」の方法を用いた研究計画・評価計画を、A4用紙3～5枚程度（4,000字以上）にまとめて提出する

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

課題1 アドバイス

スクーリングにおいて、「プログラム開発と評価」を当てはめる方法をお伝えし、グループワークで事前検討することになります。

課題2 アドバイス

スクーリングにおいて、「プログラム開発と評価」を当てはめる方法をお伝えし、グループワークで事前検討することになります。

■評価の方法・基準

・スクーリング時の参加度30%、プレゼンテーション30%、研究計画・評価計画のレポート40%とします。

■参考文献（*印=大学から送付される必読図書）

- * 1) 源由理子、大島巖編（山谷清志監修）『プログラム評価ハンドブック～社会課題解決に向けた評価方法の基礎・応用』晃洋書房、2020
- * 2) 大島巖、源由理子、山野則子、賛川信幸、新藤健太、平岡公一編著『実践家参画型エンパワメント評価の理論と方法～CD-TEP法：協働によるEBP効果モデルの構築』日本評論社、2019
- 3) ピーター・H・ロッシ、マーク・W・リップセイ、ハワード・E・フリーマン（大島巖、平岡公一、森俊夫、元永拓郎 監訳）『プログラム評価の理論と方法～システムティックな対人サービス・政策評価の実践ガイド』日本評論社、2005
- 4) 大島巖『マクロ実践ソーシャルワークの新パラダイム～エビデンスに基づく支援環境開発アプローチ：精神保健福祉への適用例から』有斐閣、2016
- 5) 古屋龍太、大島巖編著『精神科病院と地域支援者をつなぐ みんなの退院促進プログラム～実施マニュアル&戦略ガイドライン』ミネルヴァ書房、2021